

「ニューズレター交流版」を新しく作りました。これは全国の FH の交流に役立てます。各 FH の皆さんのニュース、困ったことや良かったことその他さまざまな感想や意見なども掲載します。

レター39号で東京都の「FH ばあば ぱぱ」の山本節子氏の実子、大妻女子大の先生でもあります山本真知子さんの書籍「里親家庭で生活するあなたへ」を紹介しました。その後、各界からの反響が多くありましたので少々ご紹介します。



真知子さんの本の反響、大きいですね！ 多摩児童内でも2冊回覧しています。書としても購入する予定です。私の感想ですが、反省も含めて、なんで今までこういう本がなかったんだろう？というのが一番です。里親制度が子どものためのものであるなら、それを利用する子どものためのガイドブックがあって然るべきなのに・・・

里子の質問は、山本家で育った子どもたちの声と重なります。あ、Aちゃんもこんなことを言ってたなあ、と。実子の質問は、かつての真知子さんでなければ書けないもの、真知子さんが書かなければならないものだったと思います。私も続編をぜひお願いしたいのですが、今はこの本が1人でも多くの里親家庭で育つ子どもたちの手に届くことを願っています。

また里親家庭で育つ子どもたちの気持ちを知ってもらうためにも、里親や里親制度に関わる人、必読の本だと思います。

「里親家庭で生活するあなたへ」 書評として

普段の生活の中で、里親さんにも里子さん、実子さんにも会って話したこともない私にとっては、未知との遭遇本でした。「里親制度」が日本の法律に定められている厚生労働省による福祉制度であることも漠然としか認識していませんでした。

ページが進むに連れて、まず気が付いたのは、タイトルの持っている意味の深さです。「あなたへ」は誰を意味しているのか？最初は単純に里子さんのみを表しているのかと思っていたのですが、生活を共にする実子さんそして里親さんの三方向、家庭に関係するすべての方を表していることに気が付きました。

わからないなりに読み始めた私も、次々に湧いて出る疑問が時系列で表され、それに対する適切な回答と、分かりやすい説明のおかげで、順序立てて、少しずつ理解を深めていける気がしました。特に印象的だったのは、幼い子どもから大人になっていく過程で現れてくる成長に伴う葛藤です。里子さんの気持ちが独り立ちに向かって動き出していく里親家庭からの巣立ちの難しさ、直面する里親と実親の間で揺れ動く心、実子さんが里子さんとの板挟みになって抱え

る悩み、など問題も答えも一つに絞ることが出来ない。100人いれば100通りの疑問と回答（アドバイス）が必要である、という難しさが感じ取れました。

もし、私の家庭に里子さんを受け入れようとしたら、実子は、妻は、それを受け入れることが出来るであろうか？何より自分は実子と里子さんを分け隔てなく愛情を注ぎ込めるだろうか？全国にいる里親の皆さんはこんな悩みを現実の問題として、乗り越えて前に進みだしていると思うと、本当に凄い事だと胸を打たれます。そんな皆様の助け、支えになるこの本は、意義ある素晴らしいお仕事だと感じました。

50年ほど前に、日本テレビで「つくし誰の子」というドラマが放映されていました。血縁関係のない母子の心情を描いたこのドラマシリーズは、子ども心に印象的でした。今回の脚本に加えて、現代の「里親家庭の物語」を舞台とした良質な映画やドラマが誕生すれば、知識のない人々が制度を理解するための助けになるのではないかと、えいぞうの仕事に携わってきた一人として思いました。山本先生、ここは一つ、新たな映像作品のために、物語の原作執筆にチャレンジしていただけないでしょうか？

「里親制度」がもっと社会に浸透し、この本を通して、これからも、沢山の「あなた」が救われる事を願っています。

岩田 均

（※岩田さんは、松竹映画プロデューサー。山田洋二監督と釣りバカシリーズにも参加）



とにかくユニークで貴重な著作だと思います。Q&A方式がこの本の最大の特徴ですが、Qを拝見するだけでも、すごく勉強になります。里子そして実子の方たちの意識や悩み、心の揺れが、当事者の目線で理解することができますね。

例えば里子編では「ずっと施設にいたので、里親家庭に来たくなかった」「実子との対応に差があるのが嫌」。実子編では、「里子と性格が合わない」「里子の養育で落ち込んでいる親を見るのが辛い」

「高齢の里親の心配、倒れたらどうするか」など、Qから生きた声が聞こえてきます。中には、「結婚相手にどう伝えたらよいか」など、なるほどなあ、と我々からするとハッとさせられる事項もありました。さらに一つ一つの助言やアドバイスは、里子さん、実子さんの気持ちに徹底的に寄り添いながら、周りの支援にはどのようなものがあるのか、支援者はどうすべきかを具体的に丁寧に紹介していただいています。そしてどのアドバイスにも流れているのは、相談、話し合い、コミュニケーションの大切さでした。里親の実子であった真知子さんだからこそ、まとめることが出来た生の声の説話集だと思います。部でも共有しようと思います。庶務担当に3冊ほどお願いしました。

感想の一部を掲載しました！ 改めて注文などは次ページで！



どんなことでもいいですよ！どんどん投稿待ってます！

wanzuhausu@yahoo.co.jp 小松まで

『里親家庭で生活するあなたへ』 _____ 冊

(本体価格 2,300 円を割引特価 2,024 円税込み) の購入を申し込みます。

(税込み送料：1冊 330円 2冊 440円 4～5冊 550円 6冊以上無料)

年 月 日

送り先ご住所

〒 -

TEL _____

お名前 (フリガナ)

この申込書で直接当社へ F A X あるいはご連絡ください。下記メールアドレス
にても承ります。

〒101-0062 東京都千代田区駿河台 3-6-1 菱和ビルディング 2 F

☎ 03-5577-6817

F A X 03-5577-6837

suzuki@wasaki-ap.co.jp 岩崎学術出版社 担当 鈴木